

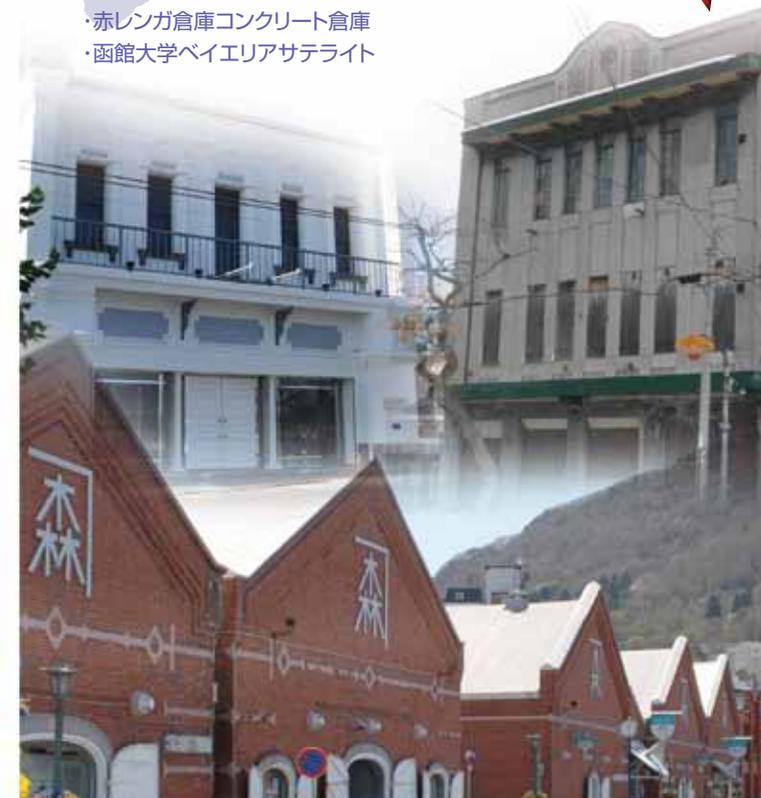
函館25 まちあるきマップ

防火・防災のまち十字街

～銀座通り 耐火建築を巡る～

所要時間 70分 距離 1.4Km 消費カロリー 180kcal

- 旧衛生湯
- 旧ホテル中央荘
- 旧梅津商店倉庫
- 旧梅津商店
- 日本最古のコンクリート電柱
- 箱館高田屋嘉兵衛資料館
- 赤レンガ倉庫群
- 赤レンガ倉庫コンクリート倉庫
- 函館大学ベイエリアサテライト



函館全体エリアマップ



西部地区



スタート地点までのアクセス

JR函館駅から1.4km(徒歩20分)
市電(函館駅前より谷地頭行き)7分

函館
知ってる?
知ってる?

明治から昭和のはじめにかけて、幾度となく大火に見舞われた函館。数度の函館大火によって、早くからレンガ造り・鉄筋コンクリート造りなどの耐火不燃建築物が建設され、また、二十間坂や基坂、銀座通りのように、道路そのものが防火線として整備され、西部地区の街並みに影響を与えています。

このコースは函館大学の学生が実習の一環で作成しました

(敬称略)

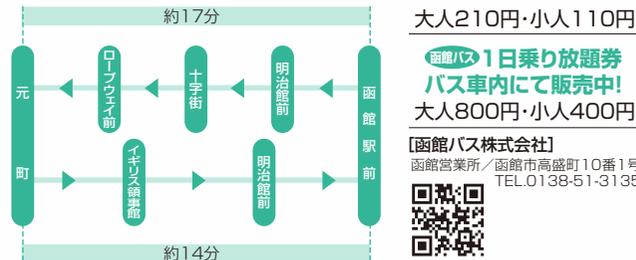
- 金澤 裕美 ● 志村 幸穂 ● 山田 勇斗
- 佐々木 孝太 ● 杉本 諒
- 佐藤 啓太 ● 高瀬 健太 他 4名

函館市電路線図

湯の川～十字街間は6分間隔で運転しています。



【元町・ベイエリア周遊号】元町観光にとっても便利な循環バス(バス停は主な停留所を記載)
【元町・ベイエリア周遊号】をご利用下さい。



函館市公式
観光情報サイト“はこぶら”
<https://www.hakobura.jp/>



フェスティバルタウンはこぶらで
開催 函館 イベントガイド
HAKODATE EVENT GUIDE
<https://event.hakobura.jp/>



発行・お問合せ先



函館市観光部

〒040-8666 北海道函館市東雲町4番13号
TEL.0138-21-3383

1 旧衛生湯



大正10年(1921)の大火後、レンガ造りで建築された。当初は、大衆浴場「衛生湯」だったが、その後、小料理屋などに使われていた。

2 旧ホテル中央荘



大正10年(1921)の大火後、鉄筋コンクリート造りで建築された。昭和9年(1934)の大火において、鉄製の防火扉等により類焼を免れた。

3 旧梅津商店倉庫



大正10年(1921)の大火後、鉄筋コンクリート造りで建築され、当時は、葦浦公証役場として使われていた。

4 旧梅津商店



大正10年(1921)の大火後に建てられた木骨コンクリート造りの建物は、昭和9年(1934)の大火により焼失。その直後に建てられた現在の建物は木造モルタル構造だが、焼失前の外観を踏襲している。

5 日本最古のコンクリート電柱



大正12年(1923)に建立し現存するコンクリート電柱では日本最古のもの。同じ形の電柱が近くにもう一本あることから夫婦電柱とも呼ばれている。このコンクリート製の電柱も大火の多いことから作られた。

6 箱館高田屋嘉兵衛資料館



現在は箱館高田屋嘉兵衛資料館となっているが、かつては、コンブ倉庫として使用されていた。向かって左側にある1号館は、明治36年(1903)に石造で建造され、その隣の2号館は、大正12年(1923)、鉄筋コンクリート造りで建造された。

開館: 9:00~17:00
入場料: 大人300円、小・中学生100円
定休日: 毎木曜(祝日の場合は翌日休)
年末年始、冬季休館12/29~3/31

7 赤レンガ倉庫群



明治40年(1907)の大火後、防火意識の向上により、明治42年(1909)イギリス積みによるレンガ造りで建築された。現在は、当時の雰囲気を残し、個性的なショップや飲食店のある観光スポットになっている。

8 赤レンガ倉庫群コンクリート倉庫



大正5年(1916)年に、鉄筋コンクリート造りで建築された。現在でも「34番倉庫」と呼ばれ、現役で使用されている。

9 函館大学バイエリアサテライト



明治44年(1911)に金森船具店としてレンガ造りで建築された。現在は、1階部分が「函館大学バイエリアサテライト(愛称: ココカフェ)」となっており、観光客も気軽に立ち寄ることができる。土・日にはムスリム礼拝所として開放している。

開館: 11:00~17:00 (木・金~15:00)
定休日: 毎火曜

防火・防災のまち十字街 ~銀座通り 耐火建築を巡る~

所要時間 70分 距離 1.4km 消費カロリー 180kcal ※消費カロリーはおおよその目安です。



撮影オススメポイント!!

- 喫茶・休憩
- おみやげ・売店
- 食事処
- トイレ
- 多目的トイレ
- 駐車場
- ムスリム礼拝所

函館の火災の歴史

函館は海からの風が強いことなどから、幾度となく大火に見舞われた。その経験が大火不燃建築物や防火帯としてのグリーンベルトの設置など現在の函館の街並みに活かされている。」

出火日	焼失区域	焼失戸(棟)数	ひ災人口	損害総額	死者
明治40年8月25日	約40万坪	8,977戸	32,428人	31,148,337円	8人
大正10年4月14日	152,830坪	2,141戸	10,996人	17,798,549円	1人
昭和9年3月21日	4.164平方km	11,105棟	102,001人	123,918,027円	2,166人

昭和9年(1934)の大火後の復興事業により形成

大正10年(1921)の大火後、防火線の指定を受け耐火建築物の街並みとなった。また、モダンなカフェなどが建ち並び、大正期には、函館で最も繁華な場所であった。